**行動経済学会・第17回大会用**

**実験・調査に関する倫理審査の要／不要自己診断チェックシート**

行動経済学会学会誌「行動経済学」では、投稿規定第8条に従って、倫理審査を通過したこと、あるいは倫理審査を受けなくてもよいことを示す書類を提出することを投稿時に求めています。行動経済学会第17回大会においても学会誌の方針に準ずる対応を求めることになりましたので、かならず記入した上で、報告申請を行ってください。

記入日　　　　西暦　　　　年　　月　　日

報告題名

報告者氏名　　　　　　　　　　　　　所属

（学生会員の方は、指導教員の氏名・所属を記入してください）

指導教員氏名　　　　　　　　　　　　所属

**下記の質問の「はい・いいえ」のいずれかにチェックを入れてください。**

**質問① あなたは、上記の報告題名の研究を実施するにあたり、調査・実験を行いましたか？**

[ ] はい　　⇒　質問②に進んでください

[ ] いいえ　⇒　質問②以降には進まず、このまま報告申請を行ってください

**質問② あなたは、上記の報告題名の研究の調査・実験を行うにあたり、倫理審査を受けて、承認を取得していますか？**

[ ] はい　　⇒　倫理委員会名・承認番号を記入して、報告申請を行ってください

倫理委員会名：　　　　　　，承認番号：

[ ] いいえ　⇒　次ページのチェック項目を確認して、報告申請を行ってください

**自己診断チェックシート**

* Q1－Q4に対応する各項目に該当する場合、□にチェックを入れてください。Q1－Q4に対応する全ての項目でチェックがつかない場合、「いいえ」にチェックを入れてください。Q1－Q4に対応するいずれか一つの項目でもチェックがついた場合は、「はい」にチェックを入れてください。
* また、該当する項目がない場合でも、Q1－Q4のいずれかに該当することが懸念される場合には、「はい」にチェックを入れてください。
* 行動経済学会学会誌「行動経済学」では、Q1－Q4のいずれか一つでも「はい」となる場合には、倫理審査の承認を取得することを求められています。所属大学に倫理委員会が設置されていない等の理由により倫理審査が受けられない場合に、「はい」が付いた項目についてどのように配慮したかについて、以下でかならず説明してください（報告採否の検討にあたり、プログラム委員会が申請者に問い合わせる可能性があります）

|  |
| --- |
|  |

**Q1: ヒト以外の動物を対象とする実験ですか？**

[ ] **はい**

[ ] **いいえ**

\*項目：

[ ] ヒト以外の動物（哺乳類，鳥類，爬虫類）、病原体、遺伝子操作等を扱ったりしない

**Q2: ヒトに危害をもたらす可能性のある処置を伴う実験ですか？**

[ ] **はい**

[ ] **いいえ**

\*項目：

[ ] ヒトに対して日常生活では生じえない水準の放射線や電磁波、電流等を浴びせない

[ ] ヒトを身体的に拘束したり、施設・装置内に隔離したりしない

[ ] 薬物や器具等をヒトの体内に挿入したり、血液や細胞等を採取したりしない

[ ] 環境面，衛生面での汚染が懸念されたり、有害な物質を発生させたり、騒音・振動・打撃・圧力等の物理刺激により身体や構造物に損傷をもたらしたりする懸念はない

**Q3: ヒトを対象とする実験や調査で心身の健康への影響が懸念されるものですか？**

[ ] **はい**

[ ] **いいえ**

\*項目：

[ ] 映像・画像・音声等の刺激の提示により、身体的・精神的に不快感が生じる懸念はない

[ ] 身体表面に何らかの器具や装置を装着することで日常生活場面では通常発生しえない状況・状態が生じ、そのため身体に危害が及んだり、身体的・精神的に不快な状態が生じたりする懸念はない

**Q4: ヒトを対象とする実験や調査で人権侵害や個人情報の漏洩が懸念されるものですか？**

[ ] **はい**

[ ] **いいえ**

\*項目：

[ ] 対象者に参加への同意を取らなかったり、虚偽の説明を行ったりしない

[ ] 対象者に理由を問わずいつでも実験・調査から退出する権利を認めている

[ ] 個人の政治・宗教上の信念・信条、家族関係、所得状況等を聞き出したりしない

[ ] 許可なく対象者からデータを取得したり、不快感を生じる設問を行ったりしない

[ ] 公表されるデータや論文・報告書等から個人が特定できない

[ ] 取得したデータを当初の目的や被験者が同意した範囲を超えた用途に使用しない

以上

**タイトル**

**著者１[[1]](#footnote-1) 著者２[[2]](#footnote-2)**

**要約**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.

JEL分類番号： ○○○, ○○○, ○○○

キーワード：○○○, ○○○, ○○○, ○○○

1. イントロダクション

1.1. ○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.

1.2. ○○○

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○[[3]](#footnote-3).

2. ○○○

2.1. ○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.

2.2. ○○○

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.

引用文献

（論文の場合）

Becker, G.S. and K.M. Murphy, 1988. A theory of rational addiction. Journal of Political Economy 96, 675-700.

（編集された本に掲載された論文の場合）

池田新介, 2003. 合理的習慣形成理論.　小野善康, 中山幹夫, 福田慎一, 本多祐三編, 現代経済学の潮流 2003. 東洋経済新報社, 東京.

Carroll, C.D., 2000. Why do the rich save so much? J.B. Slemrod ed., Does Atlas Shrug? The Economic Consequences of Taxing the Rich. Harvard University Press, Cambridge, US.

（本の場合）

Ainslie, G., 2001. Breakdown of Will. Cambridge University Press, Cambridge, UK.

（調査報告・データの場合）

日本証券業境界, 2009. 個人投資家の証券投資に関する意識調査(平成21年11月).

http://www.jsda.or.jp/html/chousa/kojin\_isiki/h21-2.pdf

1. 著者１所属 chosha1@xxx.ac.jp [↑](#footnote-ref-1)
2. 著者２所属 chosha2@yyy.ac.jp [↑](#footnote-ref-2)
3. 脚注 [↑](#footnote-ref-3)